

【第5号】

「タイランド4.0」が目指す新たな未来 ～日タイ企業連携はどう進むのか～（2）

【医療ツーリズム】

医療分野では医療ツーリズムが注目です。医療ツーリズムはタイでは早い時期から行われており、タイ政府が力を入れている分野です。中国やASEANなどの近隣諸国からの医療ツーリズム目的の滞在期間を緩和するなど、政策対応を進めています。民間企業でも、タイを代表するバンコク・ドゥシット・メディカル・サービス(BDMS)は世界で5位の規模の巨大医療グループです。バンコク市内にアジア初の総合メディカルセンター「BDMS Wellness Clinic」をオープンさせるなど規模を拡大し、医療ツーリズムの受け入れにも積極的です。

医療機器はタイでは日本はアメリカに次ぐ地位を占めており、ドイツや中国と競争関係にあります。CTやMRI、サイバーナイフや内視鏡といった分野で日本企業は優位性がありますので、タイの医療ツーリズムが盛んになることで富裕層向けの私立病院への導入が進み、それに伴う輸出の増加が期待できると考えられます。

また、医療機器については販売のみならず、医療技術の指導や機器のメンテナンスなど幅広い分野で継続的な業務が期待できる分野です。今後は中国や東南アジア各国の経済力向上に伴って、ASEAN地域のメディカルハブとして飛躍することに大きな期待が持てます。加えて、タイでは経済成長に伴って都市部を中心に進む高齢化への対応も課題となっており、高度な医療への需要増加は益々進んでいますし、日本でのノウハウを生かした高齢者向けの医療や介護なども期待できそうです。

現在タイ国投資委員会(BOI)が掲げている「タイランド4.0」の投資奨励特典は条件的には中小企業には不向きな内容もありますが、医療機器は自動車のように大量生産を前提としないため、技術力のある中小企業にとっては高付加価値ビジネスの創造のチャンスでもあります。

【タイ・バンコクでも注目BDMS Wellness Clinicプロジェクト】

BDMS Wellness Clinicは2016年9月に200億バーツを投じてバンコク中心部の一等地にあった、スイソテルナイラートパークホテルの土地と建屋を買収し進められている一大プロジェクトです。プロジェクト設立の目的は、予防医療をテーマに最先端の設備を装備し、富裕層向けに世界一きめ細かい人間ドックなどの検査を実施するものですが、しかしながらBDMS Wellness Clinicは病院ではないため、治療は行いません。

このクリニックは完全会員制で会費などの詳細は未発表ですが、入会を希望する順番待ち人数はすでに定員に達しています。方針としては会員が100歳まで生きられることを目標にサービスを提供していく計画で、2018年の3月に営業開始予定です。

ラージャモンコン・バンコク技術大学のDR.ピラサック准教授のコメントでは“メディカルツーリズムが盛んなタイではこのようなプロジェクトに発展するのは自然な流れ”であり、タイは今後、急速に進む高齢化社会にどう対処していくのか、メディカルハブとしてだけでなく、予防医療や高齢者向けサービスが増え、同時に他の産業からこの分野への参入も増えとみています。

現在のタイの課題はこのような分野に適合した人材育成やバンコク内のバリアフリー化などの公共インフラ整備を充実させることが必要とも指摘がありました。今後日本も含め人口ボーナスのない国々の課題として、こうしたプロジェクトは注目の取り組みの一つだと思われます。

(次ページへ続く)

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは
WEBから「シェアテック」で検索してください

【第5号】

「タイランド4.0」が目指す新たな未来 ～日タイ企業連携はどう進むのか～（2）



(Ha:mo)

【次世代自動車】

タイは東南アジアでも自動車生産で中心的な役割を担っています。部材の調達から完成車供給まで一貫生産可能な強みを生かして、今後も電気自動車（EV）、自動運転技術車などにおいても大きな役割を演じると期待されます。タイの自動車生産は日系企業が中心ですが、最近トヨタ・モーター・タイランドがチュロンコン大学でEVのシェアリングサービスを開始しました。

日本で販売されているコムスベースにしたHa:moという一人乗りの小型EVです。Ha:moは原則として運転免許があれば利用登録ができ、スマートフォンに専用のアプリをダウンロードして予約可能というシステムで実験を進めています。

プラグインハイブリッド自動車や本格的なEVもいずれ本格化するかもしれませんが、タイはバンコクの中心部以外では交通インフラの整備が遅れていることもあり、安価で簡易なEVは庶民の足としてタイの国情に合致しているため、一つの動きとして注目すべきでしょう。

一方、この分野で今後競合すると思われるのはやはり中国系メーカーではないでしょうか。中国は世界最大の自動車市場である上、国策としてEVを推奨していることから今後は日本企業のライバルになる可能性は十分あるといえます。実際に昨年秋には家電を輸入販売するタイのAJアドバンス・テクノロジーが中国エコカー最大手のBYDブランドのEVの製造などを手掛けると発表されています。東南アジアは人口6億人の重要なマーケットであり、日系企業も現地向けの製品は現地で企画・設計するようになってきており、今後もこうした動きは進むと想定されますので、大きなビジネスチャンスがあると思われます。

上記以外でも航空産業における部品は日本製品が多くのメーカーで使われていたり、IoTの分野でも注目すべきものが多くあります。EECと比較すると不確定な面があるのも事実ですが最先端分野にチャレンジしていることからやむを得ない面もあります。中小企業にも多くのチャンスがあるので、今後も注目していく必要があるでしょう。これまで日本の中小企業は海外進出に関してはリソース不足もあっ

(次ページへ続く)

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



海外企業

大手企業
シェアテックパートナー企業

J-GoodTech

企業情報の発信

企業情報の検索

直接の商談・情報交換

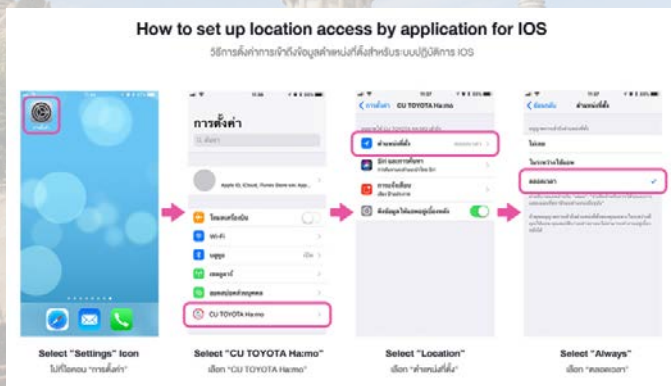
コーディネーターによるマッチングサポート

国内中小
企業

登録・掲載のお申し込みは
WEBから「ジエグテック」で検索してください

【第5号】

「タイランド4.0」が目指す新たな未来 ～日タイ企業連携はどう進むのか～（2）



(CU Ha:mo Web Siteより抜粋 <https://www.cutoyotahamo.com/en/cu-toyota-hamo-en/>)

て、自社での情報入手や分析を積極的に行わず、日本の大企業の要請によってタイに進出するケースも多くありました。今後は、ワールドワイドな企業へ自主的な接触を試みて大企業の対応できない溝を埋めるような活動が重要になってくるでしょう。

【タイランド4.0がもたらす豊かな社会】

これまで見てきたように、タイは発展するASEANの中で中進国としてとどまることが難しいポジションにあるように思います。従ってタイランド4.0に従って取り組みを続けていくことでさらなる経済発展をしなくてはならないものと考えます。タイの経済発展によって期待されるのは、生産拠点の高度化のみならず、消費市場の拡大が期待できます。ASEAN共同体を考えると、その市場規模はさらに拡大していくと期待されます。このような消費市場の拡大が進めば、食料品や外食産業、ファッション、家電製品などさまざまな業種への波及が期待されます。現地のニーズをとらえながら進めれば期待できる分野も多くなっています。日本の強みを生か

した取り組みでタイランド4.0に向き合っていくことで、ビジネスチャンスも見えてくると考えられます。

さて、タイランド4.0は期待が大きいのですが、それだけに課題も大きいと考えられます。個人的には課題の一つが人材ではないかと考えています。タイ政府も技術者等の資格制度充実を図るなど力を入れていますが、一朝一夕にはいかないのが現実です。

これまでタイの成長を支えてきたのは“積極的な工業化と諸外国からの直接投資”だと思いますが、さらに、何よりも豊かになるために努力を重ねてきたのはタイの人たちです。しかし、これからは今までと異なった価値観の違う世代で上記のような豊かな社会で育った人たちが中心になっていきます。もちろん良いことも多いのですが、かつてのような謙虚さやハングリーさに欠ける面も出てきているように個人的には感じています。

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは
WEBから「ジエグテック」で検索してください